

# 知識探訪

多民族社会の横顔を読む  
協力：日本マレーシア学会 (JAMS)

## サバ州でのコロナ感染拡大

井口次郎 (国際協力コンサルタント)

マレーシアでは、今年2月に自国民初の新型コロナウイルスの感染症例が確認(第1波)されたが、3月中旬までは散発的な感染にとどまっていた。しかし、2月末からの4日間に首都クアラルンプールのモスク(イスラム教徒の礼拝所)でイスラム団体タブリーグが開催した集会から、3,000件を超える症例が発生した。サバ州でも同集会に参加したタウ在住者の感染が3月12日に確認され、同州初の症例となった。

感染拡大を受けて、政府は3月18日から活動制限令を全国に発令した。活動制限令には罰則があり、日本のような自粛要請では社会の行動変容があまり期待できないマレーシアにおいて、感染抑制に効果があった。活動制限令は延長を重ね、感染の第2波が収束し始めた5月4日に条件が緩和された(条件付き活動制限令)。

興味深いのが、この条件緩和を、当初サバ州政府は自州に適用しなかった(その後適用)。州政府が独自の判断を下せるのは、活動制限令の根拠が緊急事態法ではなく、憲法で連邦と州の共同管轄事項である公衆衛生分野の法だからと思われる。ただ、その時点でサバ州の累計感染者数・死者数は、全国平均に比べると少なかった(州人口は全国の12%だが、州内の累計感染者数は全国の2.4%、死者数は4%)。



12月13日のコタキナバルのガヤ通り日曜市、観光客も少なくかつての賑わいはない(筆者撮影)

なお、3月の活動制限令発令の直前には政変があった。2018年5月の総選挙でのマレーシア史上初の政権交代を成し遂げた、マハティール氏率いる希望連盟(PH)政権が、誕生後2年を待たず連盟内の内紛により崩壊し、マレーシア統一プリブミ党(PPBM)のムヒディン・ヤシン党首が、統一マレー国民組織(UMNO)などの協力を得て首相に就き、3月初旬に国民連合(PN)政権が成立した。

選挙を経ずになされた今回の政権交代について「裏口政

府」との批判もあり、解散・総選挙を求める声もある中、感染拡大という緊急事態への対応もあってか同政権は存続している。

6月10日からは、さらに制限が緩和された回復活動制限令に移行し、その後9月まで感染拡大は抑えられていた。しかし、今度はサバ州で政変が起こり、これが全国での感染拡大第3波につながる。背景はまた2年前にさかのぼる。

18年の総選挙では、サバ州議会でも、国民戦線(BN)の24年にわたる政権から、野党・サバ伝統党(ワリサン)への政権交代が起きた(選挙後、BNのムサ・アマン議員が州首相に指名されたが、当選議員の移籍によりワリサンが政権獲得)。そして今年7月末、ムサ・アマン元州首相は、州議会議員の過半数の支持を取り付け州政権の奪取を試みた。しかし、ワリサンのシャフィー・アブダル党首(州首相)は即座に州議会解散を決定し、選挙となった。

投票は9月26日に行われた。著者が訪れた投票所では感染防止の行動規制は守られていたが、政党支持者集会などを見ると、選挙関連の集会全てで規制が守られていたとは思えない。危惧された通り、投票日前後から症例が増え、10月に入ると急増し、1日当たりの感染者数は第2波をはるかに上回り1,000人を超えた。州政府は9月末に一部地域に強化された活動制限令を、10月半ばには州全域に条件付き活動制限令を発令して規制を強めた。

一時は9,000人近かった州内の現感染者数は11月下旬には減少に転じ、現在は約4,000人である。しかし第3波はマレーシア全域に広がり、全国の現感染者数は1万4,000人以上で、未だ減少は認められない。

なお、第3波につながった選挙の結果だが、大差はつかないもののムサ・アマン議員率いるUMNOは旧BN構成党による連合が過半数をとり、サバ州議会でも再度の政権交代となった。現在はBN政権時代に長らく州観光・文化・環境大臣を務めたマシディ・マンジュン氏が、新型コロナ担当州政府スポークスマンとして、州民に向けて状況報告と感染予防の呼びかけを行っている。

### < 筆者紹介 >

国際協力コンサルタント。1990年代初頭にサラワク州ピントゥルで実施された熱帯林再生実験に携わる。2001年以降は、サバ州で国際協力機構が協力する生物多様性保全事業に従事した。近年はイラン、インド、バングラデシュでの環境保全業務に携わる。02年以来、ブルネイ系マレーシア人と結婚しコタキナバル在住。学術博士(国際開発学)。